

栽培種目：パプリカ (ナス科トウガラシ属)

パプリカの無農薬栽培

氏名：大林 裕明 (4-C)

〈要約〉

パプリカの無農薬栽培に関し、栽培フェスタへは3年連続の取り組みである。従前は、極めて不本意な成績であったため、問題点克服に向けての再チャレンジである。

1. 初めに

「パプリカは栽培難易度が高い」と言われている。まずは、敬遠される問題点は何処にあるのかを検証してみようとの考えで、昨年度は意図的に、ピーマン、ナス、キュウリ等の定番果実野菜と同様に、手間をかけずに放任に近い条件で、且つ無農薬で栽培した結果、どのような病徴が生じるものなのかの把握ができた。

今年度は、前年度の問題点予防に取り組んだ。

2. 方法

1) 下記のような3点について、効果の有無を試みた。

- ① 雨除け対策として、ポリフィルムシートを上面にかけた。
(実が色づき始めてから収穫するまでに約20日強かかるために、この間に雨が降ると腐って落下したり、傷みや

すいといわれているため)

- ② 病害虫の被害軽減策として過繁茂防止に努めた。
- ③ 虫よけ効果確認のためとして、一部に袋かけを試みた。

2) 栽培条件

- ① 苗を購入し(5月3日)、5月5日に定植。(赤色 2株、黄色 2株、計 4株)
- ② 株間 50cm (一条植え)
(北側の畝には、ナスを栽培)
- ③ 畝幅 60cm、畝高さ 20cm
- ④ 追肥 ハイポネックス液肥(6:10:5)を思い出したころに施肥

3. 結果

- 1) ポリフィルムシートによる雨除け対策は、果実が腐って落下したり、いたんでしまうという現象を防ぐ効果はかなり有効であった。
(生育が進んで背丈が高くなるのに合わせて、シートの位置を2回高く調整した)
(傷んだ個数は、4個)
- 2) 過繁茂防止を意図した結果、虫くいは3個しか発生しなかった。
- 3) 袋かけを行ったものと、しないものにおける虫くい防止効果を確認しよ

うとしたものの、前述のような事由にて、確認には至らなかった。

4. 考察

1) 青枯れ病発生

- ① 黄色は2株とも青枯れ病が突然に発生。(8月22日発見、23日に実を収穫して抜き取る)
- ② 昨年度も黄色にのみ青枯れ病が発生。赤色は、昨年も今年も何故発生しないのかの疑問が生じた。

2) 尻腐れ病発生 (3個)

- ① 尻腐れ病が発生したら、完熟を待たずに収穫することが肝要。(十分に食べる可)
- ⑤ 完熟するまで待っていたところ、見た目が悪くなり、食する部位もなくなってしまった。

3) 青虫発見 (7月31日朝発見)

太った大きな青虫が、赤パプリカに今まさに卵を産み付けそうな状態で発見(蝶の幼虫?)

4) 枝折れ発生

実の重みにより枝折れが3回発生。収穫時にも枝折れ発生。

A. ポリシートかけの様子



B. 袋かけの様子



C. 尻腐れ病の様子 (赤色 1個)



D. 青虫 (蝶の幼虫?) の様子



5. まとめ

来年度は、更なる楽しみのために、改善策として次の7点に取り組みたいと考えている。

- 1) 青枯れ病防止予防対策として、畝を更に高くすること および コンパニオンプランツとしてネギ類と一緒に植えることの試み。
- 2) 尻腐れ防止対策として、カルシウム分を追肥時に施肥することの試み。
- 3) 栽培日誌を日々記録することにより、天候(含む雨量)、温度、追肥実施が青枯れ病 および 尻腐れ病にどのように影響をきたすのかを確認してみたい。
- 4) 果実を大きくしたいために、摘果と剪定の実施と追肥管理。
(定期的な追肥実施)
- 5) 雨除けシートの上手な取り付け方の改善・工夫。
- 6) 支柱の立て方の改善・工夫。
- 7) 株間を更に広げること。
(50cm ⇒ 65cm)
(畝長さは、3mの為)

以上